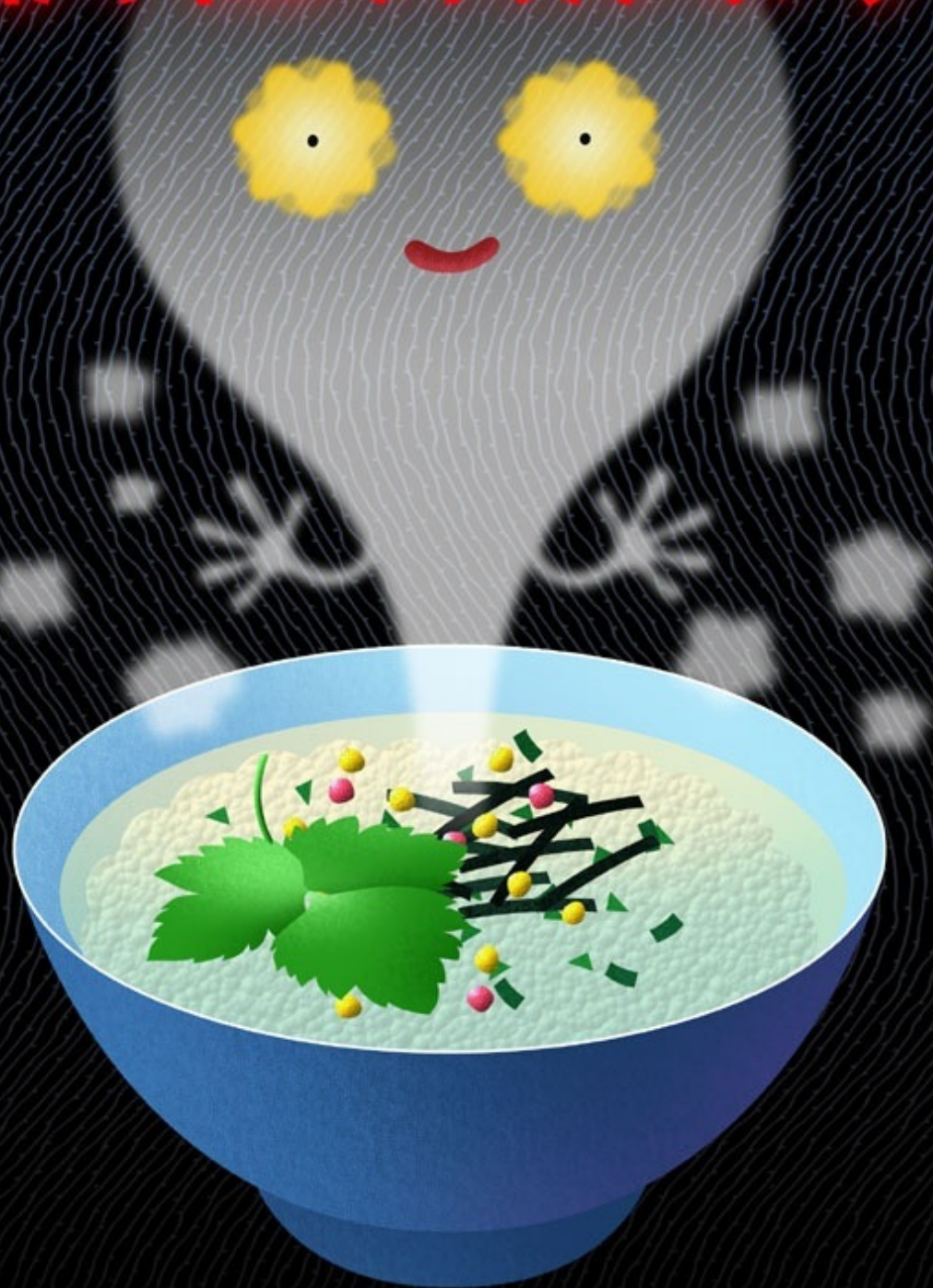


よもぎばあさんの

よう かい ちゃ づ

妖怪茶漬け



作 そのやまがりん 絵 さこやん

ほい、よもぎばあさんごじゃよ。

妖怪話を 聞きに来たのかい？

それじゃあ、

お茶漬けでも ごちそうしようかの。

天狗味、やまんば味、

味はいろいろ とりそろえてあるから、

好きなのを 選んでいいぞ。

では、始めようかの。

食へながら、耳をかたむけておくれ。

ほっほっほっ。





一杯目●取らねばとらつゝぞー！

河童 (かっぱ)



名前も姿も、これほど有名な妖怪は、ほかには ありません。

おぬしも 一度は 河童の話を 聞いたことがあるじゃろ。

昔はの、日本中の川や沼に 河童が すんでおったんじゃ。場所によって、
少しずつ ちがう形をしておったが、頭の皿と とんがった口、背中の甲らに
手足の水かき、これらは どの河童にも ついておった。

大好物がキュウリというのも、同じじゃったの。それから、どういうわけだが、
ほとんどの河童が 相撲好きでう。背だけは…そうじゃな、ちようど
おぬしと同じくらいか、もっと小さいのも おったようじゃ。じゃがな、
キュウリを食べるより、相撲が好きなものじゃから、自分の体よりも大きい
大人の人間を見つけては、相撲を取ってくれと せがんでおったんじゃ。







こんなふうにはなすと、

河童かっぱというのは 人ひとなつつこくって、

なんだか おもしろい妖怪ようかいのように

思おもうかもしれんが、本ほん当とうはの、とても恐おそろしい妖怪ようかいなんじゃ。

陸りくの上うえでは たいした力ちからは出だせんのに、水みずの中なかじゃと、

とても強つよい力ちからを出だしよる。

じゃから、例たとえばの、馬うまや牛うしを

水みずの中なかに ひきずりこんで おぼれさせたり、

泳およいである人にん間げんのキモ…、キモというのは 腹はらの中なかにある

肝かんぞうのことじゃが、そのキモを ひっこぬいて、食くうたりするんじゃよ。



河童かっぱと相撲すもうを取とった人間にんげんも、
相撲すもうを取とった後あとに、

たいへんな目めに あうんじゃ。

たとえ取とるのを断ことわっても、

「取とらぬなら、おまえに

とりついて、呪のろい殺ころしてやるぞ！」

と言いうて おどすもんだから、

しかたなく相手あいてをしてやると、

河童かっぱはな、負まけたら くやしがつて、

勝かったら得意とくいげに、何なん度も何なん度も取とりたがるんじゃ。

結局けっきょく、その人間にんげんはな、河童かっぱが あきるまで 相撲すもうの相手あいてを

させられるはめに なるんじゃが…、しかしの、その後あとが問題もんだいなんじゃ。

ようやく相撲すもうを取とり終おええて、ほっとして家いえにもどったとたん、

原因げんいん不明ふめいの病びょう気きにかかつて、何なん日も寝ね込んでしまいうんじゃ。



河童に相撲をせがまれたら、
結局、ひどい目に
あってしまふというわけじゃ。





でももの、もし、おぬしが河童に 相撲をせがまれても、心配することはないぞ。
無事に逃げられる、とっておきの 方法があるんじや。
それはの、河童に出会うたら、ていねいに おじぎをするんじやよ。

すると、河童も真似をして

頭をさげるんじやが、

河童の頭の皿には

水が入ってあって、

この水が無くなると、

河童は力が抜けてしまふんじや。

うっかり おじぎをして、

皿の水を こぼしてしまふんで、

河童は あわてて、

水の中へ ひきかえす。

そのスキに 逃げればいいのじや。

こんなふうじゃから、

河童というのは、なんだか

おもしろい妖怪に思えるんじやろうのう。





二杯目●目玉ギョロギョロ
一つ目小僧
(ひとつめこぞう)



一つ目小僧は その名のとおり、

むきたまごのような まあるい顔に、大きな目玉が ひとつだけついたり
ぶきみな妖怪なんじゃが、いたずらが大好きな妖怪でう。

夜道を ひとり歩いてとる人間を みつけては、

いきなり通せんぼして おどろかすんじゃ。

べつに 人をとって食うたりせんのだじゃが、わき道から

急に飛び出してくるもんじゃから、ほとんどの人間が

腰をぬかしてしまうんじゃよ。

声にもならん ひめいをあげて、あたふたしとる人間をみながらの、

一つ目小僧は長い舌を ペロリと出して ケタケタ笑いながら去っていくんじゃ。

このいたずらに あきてしまうと、

今度^{こんど}はあっちこっち、人^{ひと}の家^{いえ}をのぞきまわって

いたずらできそうなところを さがすんじゃ。

ふだん、強^{つよ}がりばかり 言^いうとる者^{もの}にかぎって

臆^{おく}病^{びょう}じゃったりするもんじゃが、

一^{ひと}つ目^め小僧^{こぞう}はの、そういう人間^{にんげん}が住^すんどる家^{いえ}を

ピタリと さがしあてるんじゃよ。

手頃^{てごろ}な家^{いえ}を見^みつけると、

まず だれもあらん部屋^{へや}に しびこんでの、

入^{いり}口^{くち}に背^せをむけて

置^{おき}物^{もの}をガタガタ動^{うご}かしたり、

何^{なに}か食^くい物^{もの}があつたら

ムシヤムシヤと食^くいちらかしたり…、

などと、しょうもない 悪^{わる}さはじめるんじゃ。



やがて、物音に気がついた住人が
部屋に入ると 見知らぬ小僧があるもんだから、
「こら！なにをしている！」と、
よほどの のんき者じゃないかぎり、
こんなふう
に しかりつけるじゃろ。

すると一っ目小僧は、
「だまっつていろー！」
と言いながら、



くるりと ぶりかえる。

もちろん、

顔には目が一つしか

ついとらんから、おどろいた住人は、

腰をぬかして ひっくりかえる

といっへあーいざ。



なにせ、人をおどろかすことしか とりえのない妖怪じゃから、

おどろかす人間は ようじんして選ぶんじゃ。

気の強い人間なら、こぶしをふりあげて一つ目小僧に むかっていくかもしれん。

そしたら、一つ目小僧のほうがおどろいて、

腰をぬかしてしまうからのう。

おぬしは 妖怪に 立ち向かっていくくらいの 勇気はもつてるか？

何もせんと分かつとも、いきなり 一つ目小僧が現れたら、

おぬしは きっと、腰をぬかすじゃろのう。

なに？ 違うのか？

本当は 怖くて仕方がなくせに、強がりばかり 言うてるのではないのか？

ウソをついても すぐにわかるぞ。

どうせ ひとりで トイレにも 行けんのじゃろ。

そうやって びくびくしとったら、そのうち一つ目小僧が 感づいて、

近々 遊びにいくかもしれんなあ。 ほっほっほっほっ。

ケタケタケタ



さあ、今回はここまでじゃよ。
また妖怪話を聞きたくなったら、
いつでも遊びに来ていいぞ。
とびっきりの妖怪茶漬けを
用意して、待っているからの。
ほっほっほっほ。